

## O-2-5-4

## 寸法精度を担保することを目的としたデジタルワークフローにおけるアナログ手法の併用

○安齋 聡, 奥寺 俊允  
東京形成歯科研究会

## Combination of analog techniques in a digital workflow leading to high dimensional accuracy

○ANZAI S, OKUDERA T  
Tokyo Plastic Dental Society

I 目的： 近年の口腔内スキャナー（IOS）の発展は目覚ましいものがあり、インプラント分野においても非常に有用なツールであることは理解されている。しかしながら寸法精度において単冠修復は確保されているものの、連結する構造物はデジタル印象のみでは誤差が生じてしまうのが現状である。そこで右下遊離端欠損へのインプラント治療においてサージカルガイドプレートを用いた正確な埋入と、IOSを用いたデジタル印象に加えてアナログ手法を用いたVerification Indexと咬合採得を併用し連結冠の精度の補正を行ったので報告する。

II 症例の概要： 71歳男性, 7<sup>]</sup>-4<sup>]</sup>欠損に対しインプラント治療を希望して来院した。IOSにて印象採得し、ソフトウェアを用いて7<sup>]</sup>5<sup>]</sup>4<sup>]</sup>へのインプラントの埋入位置を決定し、インプラントブリッジの治療計画を作成した。2021年3月、サージカルガイドプレートを用いて手術を行った。埋入時十分な初期固定を得ることができたため一回法とした。3か月の治癒期間を待ち、同年6月にスキャンボディを使用しIOSにて印象および咬合採得を行った。デジタル印象により作製したプロビジョナルレストレーションにて咬合の安定化を図った。また同模型においてVerification Index採得のためのフレームをDirect Metal Laser Sinteringにて作製した。同年8月に最終上部構造作製のためデジタル印象と、プロビジョナルレストレーションを用いた咬合採得を行い、同時にVerification Indexを採得した。その後カスタムアパットメントとジルコニアクラウンを作製、Verification Indexにより作製された模型にてカスタムチタンアパットメントとクラウンを接着しスクリュー固定の上部構造を作製することでIOSの口腔内での誤差をアナログにて担保した。同年9月に上部構造装着、ワンスクリューテストにて適合を確認し良好であった。

III 考察および結論： IOSを用いることは印象時の患者の不快感を軽減することができるため有用な手段である。今回の技法を用いることで口腔内で最終上部構造は良好な適合状態を示し、従来のオーブントレーテックを用いた時と同等の適合状態を示すことができた。今後は口腔衛生状態と咬合の管理を行い経過観察をする。（治療はインフォームドコンセントを得て実施した。また発表においても同意を得た）